

平成30年度 文教厚生委員会 県外視察の概要

1 参加委員

山西 国朗 (委員長), 岩佐 義弘 (副委員長), 岡田 理絵,
木下 功, 西沢 貴朗, 高井 美穂, 古川 広志

2 視察日程及び視察箇所

視察日程	視 察 箇 所
7月30日(月)	福井県教育庁 (福井県福井市)
7月31日(火)	(株) 金沢ちはらファーム (石川県金沢市) 世田谷区 生涯学習部生涯学習・地域学校連携課 保健福祉部調整・指導課 高齢福祉部介護予防・地域支援課 (東京都世田谷区)
8月1日(水)	東京シューレ葛飾中学校 (東京都葛飾区)

3 調査目的及び視察概要

(1) 福井県教育庁

(調査目的)

本県の普通科高校は、過度な受験競争の緩和や地元高校育成を目的に三つの通学区域を導入している。この通学区域に関しては、県内自治体首長の間でも賛否両論があり、今後、学区制の在り方を検討するための有識者会議において、慎重に議論を重ねる必要がある。

そこで、全県一学区とし、特色ある学校づくりに取り組んでいる福井県での取組について調査を行う。

(視察概要)

福井県における通学区域制の取組の説明を受けました。



(2) (株) 金沢ちはらファーム

(調査目的)

農業と福祉の連携は、農業の担い手不足の解消と、障がい者の就労支援といった、地域の課題解決方法の一つとして注目されており、本県でも広がりを見せている。そこで、(株)金沢ちはらファームでの発達障がい者の就農支援の促進に向けた取組について調査を行う。

(視察概要)

当社における就農支援の取組について説明を受けた後、農園を視察しました。



(3) 世田谷区

①保健福祉部調整・指導課
高齢福祉部介護予防・地域支援課

(調査目的)

本県では全国平均より早く高齢化が進んでおり2020年には県民の3人に1人が65歳以上になると推計されている。このような状況の中、医療、介護、介護予防、住まい、生活支援が地域で一体的に提供される「地域包括ケアシステム」の構築が求められており、地域の自主性や主体性に基づき、地域の特性に応じて作り上げていく必要がある。

そこで、地域包括ケアシステムの5つの要素をバランス良く取り込んだ世田谷区の取組について調査を行う。

(視察概要)

世田谷区における地域包括ケアシステムの取組について説明を受けました。

②生涯学習部生涯学習・地域学校連携課

(調査目的)

コミュニティ・スクールは、学校と地域住民等が力を合わせて学校の運営に取り組むことが可能となる「地域とともにある学校」への転換を図るための有効な仕組みであり、地域と学校が一体となった、適切な役割分担による主体的な取組は子供たちへの教育効果も大いに期待されている。

そこで、区立小中学校全校に学校運営委員会（学校運営協議会）を設置し、教育環境の充実を推進する世田谷区の取組について調査を行う。

(視察概要)

世田谷区における学校運営委員会の取組について説明を受けました。



(4) 東京シューレ葛飾中学校

(調査目的)

不登校児童生徒には、教育相談の充実や不登校の解消も必要であるが、学校以外の場での学習等に対する支援を行い、その社会的自立や社会参加を目指すことも必要である。

そこで、多様な教育の実現のためフリースクールの公教育化として開校した東京シューレ葛飾中学校の調査を行う。

(視察概要)

東京シューレ葛飾中学校の取組について説明を受けた後、施設を視察しました。

